

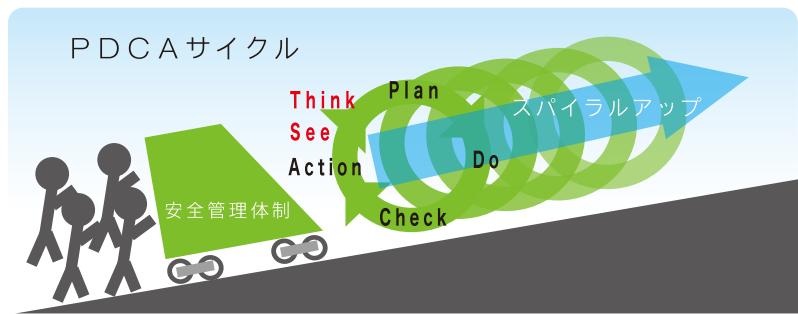
3. 重点安全施策の内容と進捗状況

3-1 安全意識の高揚・安全対策

3-1-1 「安全意識」を醸成するための取り組み

◎PDCAサイクル

安全最優先の意識を徹底させるため、計画(Plan)→行動(Do)→確認(Check)→改善(Action)→新しい計画(Plan)の浸透定着を図り、現場まで一体となってPDCAサイクルを機能させています。また、毎年度、年度計画(Plan)→実施(Do)→内部監査(Check)→年度計画実施結果見直し(Action)→次年度計画の策定(Plan)のPDCAサイクルで各種安全施策を進めています。



PDCAサイクルの根幹となるのが確認(Check)であり、その精度を向上させるため、各人のチェック能力の向上を図る施策を進めています。また、PDCAサイクルの前工程として、実態把握(See)と把握した実態を踏まえて何をすべきかを考えること(Think)を強化しており、安全計画(Plan)も実態把握を確実に行った上で策定するように取り組んでいます。

◎安全意識調査

輸送の安全に対する各施策や教育訓練の効果を把握するため、2009年度に続き、2011年度に第2回の社員に対する安全意識調査を実施しました。調査の結果、明らかになった課題は、2012年度の安全計画に反映して改善を進めています。

また、この調査は、第1回と同様、当社だけでなく、本部内グループ会社の社員に対しても実施して、課題を抽出して、改善に取り組んでいます。



◎安全講習会・安全講演会等

輸送の安全をテーマに、社外から講師を招いて講演やセミナー等を実施し、社員の安全意識高揚を図っています。2011年度は、下記のとおり実施しました。2012年度も引き続き実施し、社外の有識者からご教示やご助言をいただき、安全施策の強化に生かしていきます。

安全講習会



日 時 2011年7月15日(金)
場 所 阪急電鉄 本社エコルテホール
講 師 JR九州 運輸部・安全推進部
テーマ 「JR九州の安全施策」
聴講者 約200名

安全講習会



日 時 2011年10月4日(火)
場 所 阪急電鉄 本社エコルテホール
講 師 JR東日本パーソナルサービス
関口雅夫 様
テーマ 「事故の予兆を知り
人間の弱点を克服する」
聴講者 約170名

特別安全講習会



日 時 2011年6月22日(水)
場 所 阪急電鉄 本社エコルテホール
講 師 大阪府警本部 薬物対策課
薬物検査指導係
テーマ 「薬物乱用のない世界」
聴講者 約360名

3-1-2 法令遵守の徹底

日頃から、法令や社内規程の他、モラルやルールを含め、遵守徹底を図っています。また、社内規程等に関する法律等に対しては、官報や国土交通省からの通達を確実に確認する体制をとっています。さらに2011年度からは、輸送の安全管理に関する規程の中で、各部門の連携が必要な規程変更に対しては、安全管理推進委員会で取り上げ、内容確認と徹底した周知を図っています。

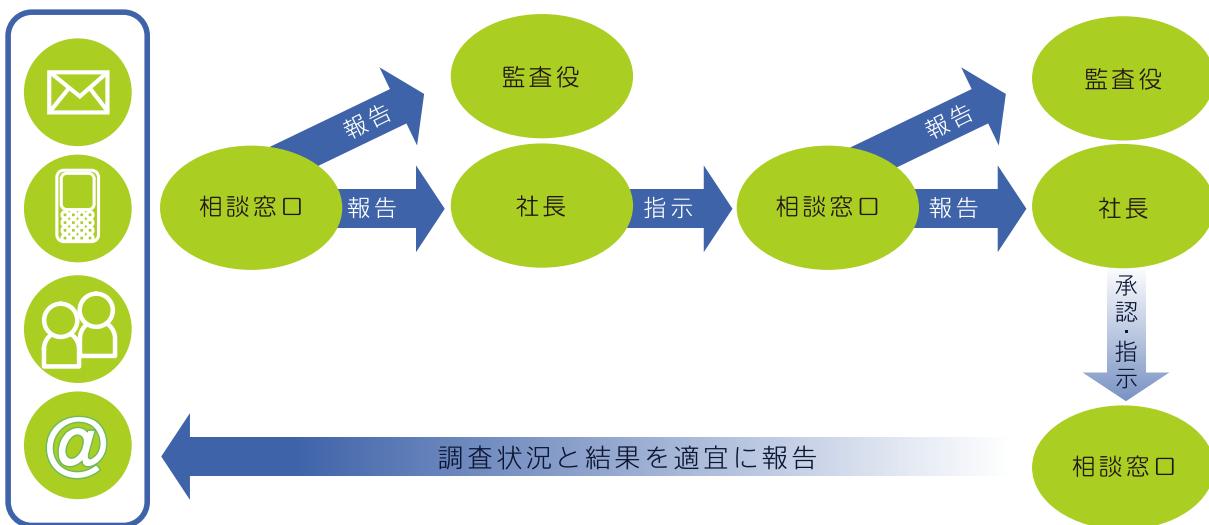
また、薬物乱用防止に対しては、毎年、特別安全講習会の開催等による啓発を行っています。すでに2012年度も社外から講師をお招きして、教育を行いました。

その他、交通法規等、社会のルールについても、全国交通安全運動等の各種運動等を通じて、意識の高揚を図っています。

また、法令等や企業倫理に反する行為及びそのおそれのある事実を認めたときに、相談する窓口を設けています。グループ会社の役職員はもちろん、お取引先からのご相談にも対応して、調査、分析し、対処することにより、コンプライアンス経営の推進に努めています。



◎阪急阪神ホールディングス企業倫理相談窓口



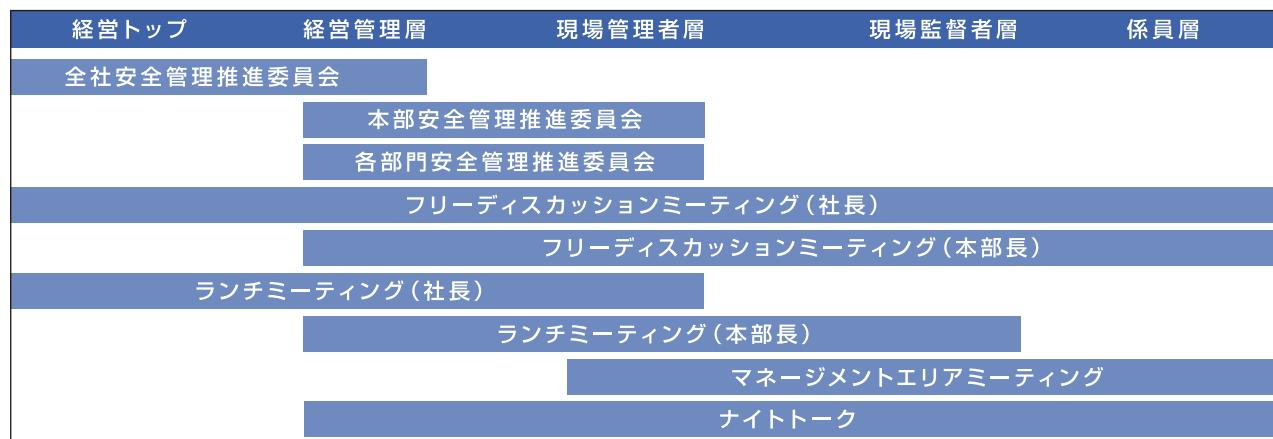
3-1-3 情報伝達・共有化の取り組み

◎安全管理推進委員会における情報伝達・共有化の体制

輸送の安全に関する様々な情報は、下図のような仕組みで共有化しています。



◎情報伝達とコミュニケーションの充実



安全管理推進委員会および巡視時の意見交換会

安全管理推進委員会や社長および都市交通事業本部長等の巡視時には、現場の実状把握の他、コミュニケーションを充実させるための意見交換会を実施しています。



FDM（フリーディスカッションミーティング）

社長や都市交通事業本部長等は、巡視実施時に「フリーディスカッションミーティング（FDM）」を実施しています。このFDMでは、テーマを限定せず、また職位や部門に関係なく円滑なコミュニケーションの促進に取り組んでいます。



重点安全施策の内容と進捗状況

LM(ランチミーティング)

社長や都市交通事業本部長等は、さらなる風通しの良い職場風土を目指して、巡視時に各部門の社員と昼食を交えながら、コミュニケーションを深めるLMを実施しています。その内容は、輸送の安全に関わる部分だけでなく、業務を離れたプライベートに関する部分まで及びます。



MAM(マネジメントエリアミーティング)

マネジメントはトップダウンのもと行われますが、現場の安全の維持向上には各部門の現場間の意志の疎通と協力が不可欠であるため、運転・土木施設・電気施設・車両の各部門を西宮・十三・正雀のエリア別に分けて、横断的な意見や情報の交換を充実させる取り組みを実施しています。



ナイトトーク

都市交通事業本部長や各部門長等は、部下とのコミュニケーションをさらに充実するため、各部門の係員とざっくばらんに意見交換する機会を適宜、設けています。

◎グループ各社との情報の収集と活用

関係各社との連携と安全輸送の強化を図るために、運輸安全に関わる情報の収集と共有を実施しています。

安全管理推進委員会 幹事会

鉄道事業者 4 社(能勢電鉄・北大阪急行電鉄・北神急行電鉄・神戸電鉄)を交えて、毎月、情報の交換と共有化を図っています。



グループ安全関係情報連絡会議

当社グループの交通事業者(鉄道・バス・タクシー・船舶)9 社を交えて、運輸全般の情報を共有化し、各社の取り組みの強化に活用しています。

◎外部情報の収集と活用

下記会議体にて、事故や運輸安全マネジメントに関する情報を交換し活用しています。

安全情報連絡会議

全国の鉄道事業者が自主的に情報交換する会議です。当社も第 2 回から参加して、法規や事故情報をはじめ、東日本大震災あるいは東海・東南海・南海地震に関する津波対策等に至るまで、輸送の安全に関する課題に対する情報共有を進めています。

関西安全担当者情報連絡会議

関西における地域情報の収集や連携の強化を目指して、関西の鉄道事業者と情報交換を実施しています。

3-1-4 教育・訓練

◎運輸安全マネジメント教育

運輸安全マネジメントが取り入れられた経緯やその背景の他、安全管理規程や安全計画等とともに、社長のコミットメントを周知徹底する教育を実施しています。その他、各部門でも運輸安全マネジメント等に関する各種教育を実施しています。運輸安全マネジメントに関連する教育は下記のとおりです。

基本教育

社長及び役員以下、都市交通事業本部員に対して、運輸安全マネジメントの導入の経緯や背景を学ぶとともに、安全管理規程や内部監査の仕組みの他、年度計画を学習するカリキュラムです。また他の事業本部等の輸送の安全に関わる社員等にも、この教育を実施し、当社社員と同等に周知徹底を図っています。



出前教育

各部門や関係各社からの要請に応じて、基本教育の他、運輸安全マネジメントや内部監査に関わる教育を各現場や職場に赴き実施する教育です。



階層別教育

管理者や監督者あるいは係員、また新人や他本部からの異動者等、対象者別に運輸安全マネジメントや安全管理規程、安全計画等、カリキュラム別に実施する教育です。

内部監査員教育

鉄道総合技術研究所の講師が実施する内部監査員教育を修了した当社社員が講師となり実施する、社内向けの内部監査員教育です。安全統括管理者以下、内部監査を実施する者は全員受講し、内部監査に関わる知識や技能を習得しています。

◎コーチングセミナー

コミュニケーションや指導の能力を高めるため、コーチングセミナーを開催しています。また、教育終了一定期間後にフォローアップ教育を実施して、その効果を高めて持続させています。

◎外部教育及びセミナー

安全管理推進委員会の構成員や内部監査の実施者は、社外で開催される教育やセミナーを受講し、それぞれ社内教育に展開して能力向上に努めています。

- ・ガイドラインセミナー
- ・内部監査セミナー
- ・リスク管理セミナー
- ・内部監査者及び管理者研修
- ・事故分析手法
- ・安全の人間科学 等



重点安全施策の内容と進捗状況

◎運輸部教習所・人材育成センター

当社は、動力車操縦者（運転士）や車掌、助役等を養成する教習所（国土交通省認定）と、駅係員を育成する人材育成センターを設置しています。



◎技術系各部門の新入社員教育

技術系の各部門では、4月から数ヶ月間、机上による教育と現場見習いを経て各職場に配属し、実践経験の中で知識や技術あるいはノウハウを習得させる等して、育成を図っています。



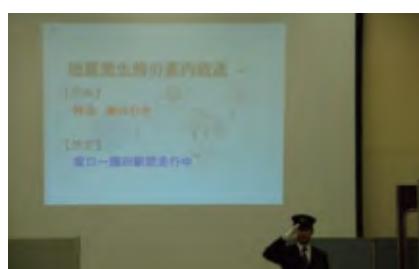
◎技術研究及び技術向上

・運転部門…車内案内放送コンテスト

実施日…2012年2月9日(木)

場所…本社エコルテホール

概要…「お客様にわかりやすい放送を追及すること」を目的に、基本放送や異常時の放送等、車内案内の技術や知識を競いました。



・運転部門…接遇サービスコンテスト

実施日…2012年2月24日(金)

場所…池田市民文化会館(アゼリアホール)

概要…「接遇レベルの維持向上」を目的に、「好感の持てる接客姿勢・態度・言葉遣い」「駅の美化」「犯罪防止」を意識した営業関係の知識や取扱いとともに、ご案内の技術を競いました。



・土木施設部門…保線作業コンテスト

実施日…2011年10月28日(金)

場所…西宮車庫

概要…保線業務の係員を対象に、教育効果の検証や技術の伝承と線路保守作業の習熟度を確認する目的でグループ会社と合同で実施し、技能を競いました。



- 電気施設部門…小集団活動テーマ研究発表会
実施日…2012年3月16日(金)
場所…本社エコルテホール
概要…若年者の育成・技術力向上を目的に、各職場にて小人数のチームを構成し、1年間、設備・工具・作業手順等の改良・研究に取り組んだ成果を発表しました。



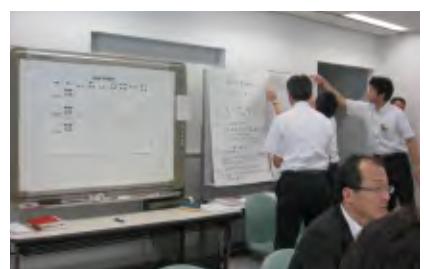
- 車両部門…技術研究発表会
実施日…2011年11月18日(金)
場所…運輸部教習所
概要…技術水準の向上や技術習得を目的に、調査・研究の成果報告を行いました。また、技術の伝承を目的として、経験豊富な熟練者の貴重な経験談や技術論の講演を行いました。



◎都市交通事業本部合同訓練

各部門の連携した対応が求められる大規模災害や事故を想定して、都市交通事業本部合同訓練を実施しています。2011年度は、7月に東日本大震災を踏まえ、安否確認や非常招集及び情報伝達が円滑に実施できることを確認する図上訓練を、11月には、社長自らが陣頭指揮を取り、お客様の避難誘導や脱線復旧を行う実地訓練を実施しました。

- 図上訓練
日時 2011年7月13日(水)
場所 都市交通事業本部の各部及び各グループ会社
目的 東海・東南海・南海地震同時発生に伴う社員等の安否確認及び非常招集訓練他
想定 東海・東南海・南海を震源域とする地震(M9)が発生。緊急地震速報により35秒後に大阪市内で震度5強の地震が発生。津波警報発令。津波予想は5.5mで到達時間は約100分。引き続き強い余震の発生の可能性あり。
被害 列車及び車両 脱線等被災なし
駅設備 梅田駅～十三駅(部分損壊)
橋梁 淀川・新淀川・長柄・淀川運河・長柄運河の各橋梁損傷
通信 十三～西宮北口・服部・上新庄のエリアは携帯電話不通
訓練 ①お客様避難誘導
②全列車停止位置確認
③車庫内車両の状況確認
④社員の安否確認・非常招集・復旧体制整備
参加者 約2,800名



重点安全施策の内容と進捗状況

・実地訓練

日 時 2011年11月15日(火)

場 所 宝塚線 平井車庫

目 的 異常時における運転取扱い及び各復旧作業の正確・迅速な実施を検証する。

想 定 箕面線牧落～箕面駅間平尾踏切道において、トラックに搭載したユニットが架線を引っ掛け損傷させるとともに、積荷の鋼材が上り線に落下。普通列車(4両編成・お客様100名)が同踏切道にて鋼材に乗り上げ脱線し、上下線を支障。

被 害 運輸 お客様 負傷(重軽傷11名)

車両 台車・パンタグラフ等 損傷

土木 レール 損傷

電気 架線及びポイント 損傷

訓 練 ①お客様避難誘導

②情報伝達訓練

③復旧訓練(車両・土木施設・電気施設)

参加者 約200名



3-1-5 改善提案活動

社員の様々な改善提案や実績等を集約して共有化を図るとともに、貢献度の高い提案を表彰する制度を設けています。改善提案は、作業安全や設備改良、業務改善等、様々な分野に及びますが、輸送の安全に関する提案も数多くあります。また、優秀な案件は、社内だけでなくグループ会社全体への共有化と啓発を兼ねて、「グループアワード」と称して、阪急阪神ホールディングスグループ全体でも表彰しています。2011年度の事例を一部ご紹介します。

◎メタライズドカーボンすり板の導入によるトロリ線(架線)摩耗の総合的改善

車両のパンタグラフのすり板部(パンタグラフの一部で、主にトロリ線と接触する部分)の材質を従来の焼結合金(テコライザ)から自己潤滑性に優れたカーボンに変更し、トロリ線の摩耗軽減による改善を実施しました。

カーボンすり板には、自己潤滑性が優れているためトロリ線の摩耗が少ない、パンタグラフと架線が摺れる音が小さい、電波雑音が小さいという長所があります。一方、電気抵抗率が高い、機械的強度が小さい、カーボン微粉末により車体が汚れる等の短所がありますが、近年は抑制されてきています。

2005年7月から実施した嵐山線での試験結果が良好だったことから試験線区を拡大し、全線に導入しました。その結果、トロリ線の摩耗がかなり低減し、従来の17倍ほどの延命効果を認めました。振動や金属疲労を考慮し、耐用年数を約35年としても、安全性向上と省力化および保守コストの低減が実現できます。

